

2012 年度 自己評価結果公表シート

平安女学院大学附属幼稚園

1、本園の教育目標

キリスト教の愛の精神を教育の基本に据え、「自分のことばかりでなく他人のことも考えることのできる子ども」を目標にしています。

- ① 自然とたくさん触れ合うなかで、子どもが自分の力で考え、心を動かし、探求し、判断し、想像力や創造力をもっていきいきと活動する。
- ② いろいろな人と一緒に過ごすなかで、自分と友だちや他の人々との違いを認めるとともに、信頼を持ってともに生活する。
- ③ 絵本とたくさん触れ合うことで、豊かな感性をはぐくむ。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- 2011 年度の自己点検評価及び学校関係者の評価から、下記の点について重点的に取り組む
- ・保育者の質の向上を目指し、研修に積極的に参加し、全保育者で共有する
 - ・個人送迎であることを生かし、保護者と積極的に関わり、保護者の幼稚園教育への理解を促す
 - ・昨年不十分であったので、行事のねらいを明確にし、目的や方法を再検討する

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
研修に積極的に参加し、保育者の質の向上を図る	以前から作成している研修記録の充実を図り、回覧するなどして、全保育者で共有している。
送迎時に、保護者と積極的にコミュニケーションを図る	指導案に、家庭との連携の項目を作成し、課題の明確化を図っている。
子どもの自発的な活動を支えるための時間（プログラム）や空間（保育室や屋外の環境）を工夫する	特に各クラスの日々のプログラムを検討し、自然観察林に遊びに行く時間を増やしている
危機管理・安全管理を充実させる	園独自の防災マニュアルの作成をするための話し合いを継続する。防災用品（防災ずきん、非常食）を購入し、その使用方法について周知徹底している。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・重点目標としていた研修の積極的参加及び記録の充実、全保育者の共有に関しては、昨年に比べて充実することができたが、引き続き努力が必要である。
- ・行事の見直しに関しては、方法の部分は保育者全員でよく検討し改善できたが、目的の明確化などは不十分であるので、引き続き検討を要する

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
個別支援の必要な子どもの増加に伴い、保育内容及び指導方法の見直しに取り組む	特別支援教育園内委員会の開催を増やす 個別指導計画の立案を加配教諭と担任教諭とで取り組む 保護者と専門機関を結ぶ方法を模索する
地域との連携を深めるための、未就園児クラスの開室	週1回未就園児クラス（親子登園）のための施設の充実、保育内容の検討を行う。

6、学校関係者の評価

【保育について】

- ・アットホームなあたたかい雰囲気の中、先生全員が全園児や保護者のことを理解している。
- ・自分のやりたい事を最後まででき、苦手な事を無理に押し付けない保育なので、得意なことを伸ばすチャンスを頂き、自信につなげていける。
- ・先生が常に子どもと一緒に目線で思い切り遊び、笑い、時には叱ってくださる所が嬉しい。

【教員の資質について】

- ・いつも必ず笑顔で優しく挨拶をしてくださり、元気をもらう。
- ・先生同士の連携がしっかりしていて、どの先生に相談してもしっかりと対応してもらえる。
- ・ベテランの先生が多く、安心。
- ・園児だけでなく、保護者に寄り添って心のケアもしてくれることに感謝している
- ・先生は子ども達に、自己肯定感を与えてくれるように接している。

【行事について】

- ・どの行事も子ども達が主体で、無理なく子ども達の好きなことや成長に合わせて内容を考えてくださっている。
- ・四季折々の季節を感じられるよう、様々な行事を準備してくださり、家ではなかなかできないような体験をさせていただき、ありがたく思っている。
- ・何かを思いやり、感謝の心に導いてくださる礼拝があることが魅力的。
- ・遠足や雪遊びでは、園児全員を遠くまで連れて行ってくださることに感謝している。

【その他】

- ・山があり、自然をいっぱい体感できる環境が本当に素晴らしい。子ども達がその中で、のびのびと遊ぶ姿がたくさん見られる。

7、財務状況

公認会計士による監査の結果、適正であると認められている。